

いむか

# 人模様

## 心に響くオペラ目指す



宮崎学園短大音楽科長・教授  
末平浩康さん 64 (宮崎市)

「人の心は宇宙より広い。そこに届かせるには、少しでも遠くに行き渡らせないとけないんです」。音楽家として熱く理想を語る。宮崎市出身。幼い頃から歌

うことが大好きで、宮崎大の特別音楽課程(当時)で音楽を専攻した。卒業直後に教員になろうとしたところ、恩師に「もっと勉強しておかないと後悔するぞ」と忠告され、

東京芸大声楽科に入学。優秀で個性派ぞろいの学生に囲まれて4年間を過ごした。

から出るのではなく、体から離れたところで響いているような声」が理想だ。

ある。(宮崎)  
来年、協会として5作目の公演「赤毛のアン」を予定している。ただ、「理事長といえどもオーディションを受けます。落ちたら裏方。厳しいですよ」と言っ

2008年まで県立高で音楽の教員を務め、現在は宮崎学園短大の音楽科長・教授として指導する。教育方針は「怒らないこと、褒めること」。中学まで人前で歌声を褒められ、やる気を駆られてきた。「褒められたことが音楽の道に進むきっかけとなった」と振り返る。

オペラとの出会いは芸大時代。魅力にとりつかれ、宮崎に戻ると県オペラ協会に入り、公演の場を作ってきた。現在は同協会の理事長を務める。自らもコミカルな役柄が多いバリトンに徹するなど、普及に心血を注いできた。

目指すは老人のマッシュュー役。古い先を案じ、孤児院から男の子を引き取って育てようとしたところ、手違いでアンがやってくる。しかし、やがて子どもを愛する喜びを知り、ついには「ীদেরの子より、アンの方がいいよ!」と、力強いメロディーに乗せて言い切るフレーズに思わず涙した。

目指すレベルは高い。「上は2キ先まで、下は地球の裏まで届くように」と教える。音楽は自分の身体そのものが楽器。呼吸と響かせ方によって声は変わる。最終的には「体

しかし、県内でオペラが浸透しているとは言い難い。練習場を予約すると、「お寺協会」と表示されていたことがあった。ある公演では、日本語で演じたにもかかわらず、観客に「あちらの言葉は分かりにくい」と言われたことも

だが「本番で感極まっていたら話にならない。落ち着いて演じなければ」。気持ちは既に舞台の上。今から緊張感に満ちあふれている。

(内田遼)